



地球のいのちの営みと調和、融合して
共に生きるコミュニティづくりの情報を発信する

いのちの森通信



公益財団法人
いのちの森
文化財団



Vol. 23
2012.JUN.

平成24年6月30日発行
編集 山下 薫

発行/ 公益財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋2471番地2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011
ホームページ <http://inochinomori.or.jp> Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

原発論争の実情

いま原発問題で賛成派と反対派が分かれていきます。それぞれの派が、その理由や根拠となるデータを出して論争しています。なかなか決着がつかない。これまでも、適当なところで政府とか企業側が自分の主張に従って決着をつけ、市民派は諦めてそれを受け入れて、次第に落ち着くというパターンでした。今回は、さすがにそう簡単にはいかなくて難航しています。ではなぜ今回は、このように市民派が頑張れるのでしょうか？

一つは、もちろん原発事故の深刻さにあるでしょう。一旦起こってしまえば、その影響がどこまで深刻になるか予想がつかない放射能の被害を経験して、多くの人が原発はもう終わりにしたいと主張し始めました。一方で、「怪我をするからといって、包丁を使わないのか!」というような強引な発言も聞かれます。このような主張も含めて、以下に考えてみましょう。

論争の根底にあるもの

どんな役立つ技術にも必ず副作用があることは繰り返して言ってきました。だから原発は悪いものか良いものかと論じていては、水掛け論になります。水掛け論に持ち込んで有利なのは力を持つ側です。今回は、ようやく力が拮抗し、どちらがより危険かという論争にまで持ち込めましたが、量で測ってどちらが、という科学論争をしていても、これまた決着はつかないでしょう。それより問題は、その利益と被害が誰に行くのかということです。益だけを受け取る人には、文句なしに原発は結構なものでしょう。たとえば、原発推進派を代表するK氏(元東電副社長、元衆議院議員)が、事故直後に朝日新聞のこ

連載 自然と共生する社会をどう作るか

原発事故は日本人の価値観にどう影響するか

内藤 正明

(京都大学名誉教授)

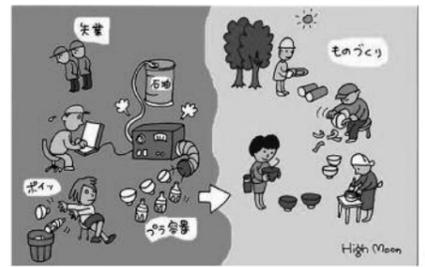


そもそも国のあり方とは

ラムに、「原発なしで日本の産業は、株主利益はどうなる、金融市場の混乱をどうする」と書いていました。この言葉でも明らかのように、原発の利益は、第一に電力会社とその株主に、次いで大量に電気を使う産業界が享受します。国民も安い電気の恩恵を受けてきましたが、これには将来のツケも加えた詳しい計算が必要です。それに対して、明らかに最大の被害は被災地の人々にいきまされたが、さらにいろいろな後始末を税金で負担する国民も被害者でしょう。

現在でも「強勢大国」といった目標を挙げて邁進し、国民はその道具になっている国がありますが、日本はそこからは卒業したのでしょうか。戦後の日本は、軍事大国に代わって、「産業立国」として産業の発展を目指し、終戦から今日まで70年間、国民は産業戦士として企業に尽くすことを目的として頑張ってきました。そのためには多少の犠牲も仕方がないという、「滅私奉公」という精神構造は戦前と変わってはいなかったのです。したがって

自然の恵みを生かした小さな生業



ろいろな場面面で、国や産業界の言うことには無理があっても、従うべきだという気持ちがあったのでしよう。

なお、「産業国家・日本」では、国の目標としてGNPという経済の指標が唯一のものとして使われてきました。その場合には、GNPの拡大に貢献しないものは、価値がないことになります。たとえば、高齢者や障害者、落ちこぼれなどは、貢献どころかお荷物として切り捨て対象です。さらに外貨の稼げない一次産業や地方農村などもその仲間でしょう。教育についても、大阪府の教育改革では「エリートを育てる。落ちこぼれもやむなし」という方針ですから、沢山の切り捨て対象が生まれることになりそうです。

働き方の工夫・仕事の創出

- 地域の資源を生かした小さな生業
- ・自分に合う生き方を探りながら起業する
- ・地域の素材と、適正技術をもってものづくりをする

変わる必要があります。たとえば、思いつくままに挙げると、左記のよう

- * **市民科学・市民大学** <市民研究所、農業塾、大工塾、市民相互の教え合い塾>
- * **市民技術** <市民発電所、市民工房>
—株主利益のための産業技術・産業科学から、市民の幸せを目指す科学・技術とその教育へ—
- * **市民ファンド、市民企業** <ワーカーズコープ、ソーシャルファーム、プロシューマ>
—大規模商業資本から市民のマイクロ金融、市民が経営者となった起業—

今回の災害が契機となって、「原子力村」に象徴されるこの国の統治機構の実態が明らかになり、これまでの滅私奉公がどんなに虚しいものだったのかに気付いたことは、とても大きな意義があります。それは戦中に「大本営」なるものがいかに情報操作をして、国民を破滅に導いていったかが敗戦で明らかになって、みなの気持ちが大きく変化したように。そしてついに、戦後の「産業社会」がいま世界中で行き詰まりに直面し、いよいよ何か別の社会に大転換する機運がでてきたということでしょう。その第一は、自分を捨てて誰かに奉仕することから、「自分と

誰もが役割のある社会

- 互いの存在価値を理解する
 - 居場所があり、出番がある
 - 助け合い、支え合うことのできるコミュニティ
-

縦のつながりと横のつながり



孫・子」の幸せのために行動する社会への転換です。

ここで、「孫・子」というのは深い意味があります。もし、自分のためだけ、というと、極端なエゴ社会になる心配があるでしょう。ところが、「いのちのち」というものの究極の目的は「世代を繋ぐ」ことです。そして、将来世代の生存は、他のすべての生き物のいのちと支えあい、繋がりがあって始めて可能になることですから、自分と孫・子の生存を考えると、結局はすべての命を尊重することがどうしても必要になります。なお、現在ある『いのち』の究極の目的が「世代を繋ぐ」ことであるというのはどう証明されるのでしょうか。遺伝子の理論では、「もしそうでなければ、現在のいのちは存在していかないはずである」という、まさに『トートロジー(同義反復)』で簡明に説明がされています。

ないとう まさあき 履歴：1939年大阪府生まれ。1962年京都大学工学部卒業、1969年工学博士、1974年国立環境研究所主任研究官、同統括研究部長、1995年京都大学工学部研究科教授、2002年同大学院地球環境学学長(併任)。(京都大学名誉教授) 現職：琵琶湖環境研究センター長(NPO) 循環共生社会システム研究所・代表理事 著書：「持続可能な社会システム」、「地球環境と科学技術」 岩波講座など。活動：持続可能な社会の理念と実現方法に向けた研究およびその実践活動

全人医療と教育を目指した青少年育成活動の実態

今回、東北地方を襲った自然災害と連動した原発事故は、人類が直面した未曾有の災害といつても、過言ではありません。被災地の方々のご苦労、ご心労は、いかばかりかと、日々心を痛めております。

と同時に、この出来事は、すでに識者の指摘にもうかがえる通り、現代社会における自然科学の発展と経済効率第一主義（もとより、科学や経済活動自体を否定するわけではありませんが）に伴う弊害という、人類自体の偏った歩みに対する警告であり、人災として受け止め直す契機であるかと、改めて思いをいたしております。

さて、小生自身、既に紹介しました通り、精神科医として、40数年余、《このころの危機》に取り組みさせていただいてきた臨床実践を通じて、個人存在に様々な影をおとしている、モノ的な価値観の肥大化と加速に伴う、《自然のいのち》から解離した、時代的閉塞状況に、日々気づかされてまいりました。

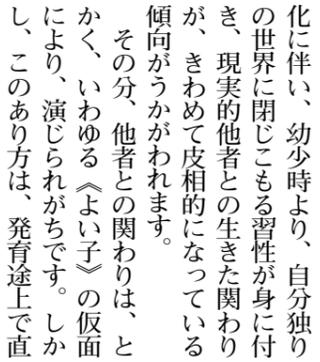
とりわけ、昨今大きく注目されている自殺率高騰の背後に、人間が全人的、全生涯的に《生きるということ》の意味喪失が潜在している実状は、その象徴といえましよう。

と同時に、危機は再生（生き直し）に向けてのチャンスでもあることも、学ばされてきました。

今回は、この機会に、《いのちの森》における、青少年育成活動の実態を紹介させていただきます。

ご紹介させていただくことを通じ、改めて全人医療や教育の在り方につき

ご参考に



巽信夫先生「心の勉強会」

していただく機会といたく、したためさせていただきます。

現代青少年の実情

この状況を紹介する前に、人間は、身体的、心的、社会的、そしてスピリチュアル的存在として、捉えられますが、このような諸次元に分割する以前に、丸ごとの《いのち》として、受け止める観点が、予め必要かと思われま

この丸ごと
《意識生命体》ともいえ、とりわけ人間にあっては、《他者》や、《自然現象》と共振、響動しながら、限りなく生成発展する創造体であるところに、その存在の本質があるよう

いのちの森構想 つながりあう全人的医療と教育を目指して “いのちの森”での実践報告



巽 信夫
(精神科医・いのちの森クリニック院長
前信州大学医学部助教授・いのちの森文化財団理事)



大豆の定植作業を体験（青少年育成講座）

うです。

《いのちの森》での日常生活活動

さて、ここで筆者からみた、日々の《いのちの森》活動の概要を紹介してみましよう。

標高約1000mの飯綱高原中腹にある白樺林に囲まれた当共同体では、広大な農地を開拓し、そこに完全無農薬、無消毒を基本とした、多種多様な野菜やコマ作りが、活動の大きな基本となっております。



素材の味を活かしたお料理作り

面する内外の現実諸課題の前に、適応困難性や、限界性が露呈し、ひいては様々な心身や行動の障害へと陥りがちです。

このような当事者との個人カウンセリングを通じて、外見上の明るさとは裏腹に、人知れぬ不安感、孤立感、空虚感、さらには虚無感や不信感等に悩まされている心の闇の真相が、次第に浮き彫りにされてまいりま

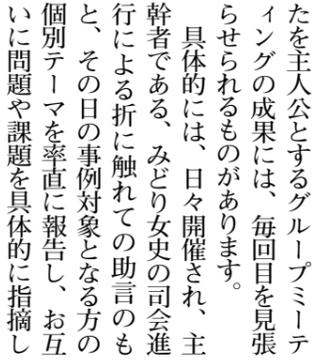
それだけに、とりわけ発達途上にある青少年の方々への支援活動に際しては、単なる小手先の対応では通じず、人間存在の根幹を見据えての、全人的かつ発達促進的な見守りが、基本となってくるよ

実習生やスタッフの多くは、まさに人工的生活空間とは対照的な、澄んだ空気に包まれた大地と接触し、作物の手入れに全身で、終日取り組みます。

早朝は、座禅体験の場も設けられ、当所における意識活動の要（かなめ）ともいえる、《今、ここ》に集中するモデル体験の機会ともなっています。

食事も、自分たちの手づくりによる取りたての新鮮な野菜、そして地元市場でその日直接仕入れた、魚介類を中心素材とし、メニューも多彩です。また、時々の温泉浴や外食などを通して、味覚の学びと、今までのいかによくない食べ物を食べていたかなどの実態を知る練習にもなっています。

入所後、数か月も経つと、多くの方は、見違えるようなたくましい身体に変化してゆきます。なお、当所では、業務活動の一環としての、2食付宿泊施設も運営されており、その料理内容もその都度の来客に見合ったメニューが、工夫され、又完全木材の館内は、季節感漂う草花の飾りつけや、センスある絵画展示にも工夫がこらされ、合わせて各部屋の清潔保持も、大切な職場実習の活動となっております。



本音で関わりあうグループミーティング

その際、とりわけ当事者の方がたを主人公とするグループミーティングの成果には、毎回目を見張らせるものがあります。

具体的には、日々開催され、主幹者である、みどり女史の司会進行による折に触れての助言のもと、その日の事例対象となる方の個別テーマを率直に報告し、お互いに問題や課題を具体的に指摘し

その際の参加者各自の隠し芸には、普段の姿からは想像もつかない創意工夫に満ちたユニークさが披露され、拍手喝采と爆笑に包まれるひと時ともいえましよう。

青少年育成活動における実習生の実態

いのちの森実習生の年齢層は、中学生世代から青年期後半の30歳台に至っています。

そして、共同生活での実績や歩み具合に応じ、やがて、アシスタントスタッフとして、社会的参加の前提となる、役割体験への道筋が設けられています。

なお、当所開設当時は、求道的な志のある方がたの参加が、主のようでしたが、時代の変遷とともに、次第にメンタルヘルス面での課題をもつ、様々な方の来訪へとシフトしているのが、実状のよう

あうという、切磋琢磨的な集いの場です。

人間は、自分自身のことは、なかなか気づき難い反面、他者の問題は、客観的に目につき易いという傾向のあることは、指摘するまでもありません。

しかも、この相互指摘の場では、相手を貶めたり、批判のためは、相手の母壊といえましよう。それだけに、このミーティングを介し、相互信頼が芽生えるとともに、相手の姿のなかに、これまで気づかなかった自分の姿を発見し、向き合っていくという仕組みになっていく点が、その真髓といっても過言ではありません。

この様な、日々の共同生活体験を通じて、人により一進一退や遅速の違いはありつつも、次第に、自らの未熟性や課題に向き合うとともに、自ずと主体的な自己が芽生え、かつ他者との絆も育まれてまいります。

次世代医療、教育活動のあり方に向けて

《いのちの森》では、このような、《生きるということ》の原点に立ち返る生活体験を通じ、次第に自らの未熟性と逃避性に気づくとともに、自ずと主体的な自己が芽生え、周囲との絆が育まれ、ひいては心身の不調和が修復されてまいります。

自分らしく生きたいという願望は、人間存在の基本的欲求ともいえ、しかも生涯を通じて発現され続ける可能性を秘めていることは、死との向き合いを余儀なくされる《壮年危機臨床》を通じて学ばせていただいた事実によっても、裏づけられます。

ただ、この基本的欲求の封印は、単に当事者のみならず、時代的社会的意識により、大きなマインドコントロールを受けている消息も見逃すことはできません。

とりわけ、既に触れたとおり、科学技術の飛躍的発展と偏った経済優先に伴う、分析的思考や比較競争原理の加速化は、反面、丸ごとの人間を疎外化し、外的モノ的に扱う対応を余儀なくしがちです。その評価基準が、偏差値教育や、臓器別、細分化医療にも影を落とし、ひいては、家族や職場、地域社会の絆喪失にも連動しているように思われます。

まさに、この時代的危機的状況にあつて、科学技術や経済活動の恩恵を生かしつつも、《丸ごといのち》としての人間復活、及びその裡に潜む主体的自己の発現や、自己治癒力の活性化こそ、次世代《癒し文化》や《教育文化》の要（かなめ）になるかと思われ

たつみのぶお：医学博士。精神科医。いのちの森クリニック院長。前信州大学医学部精神医学教室助教授。公益財団法人いのちの森文化財団理事。所属学会：日本精神神経学会、日本内科学会、日本内視鏡学会、日本トランスパーソナル心理学・精神医学会、日本サイコセラピー学会、日本精神衛生会。いのちの森文化財団理事。

専攻：精神病理学・精神療法学。精神分析に代表される西欧心理療法に学びつつ、日本独自の森田療法、内観療法の研究に従事し、昨今身体、精神、社会、いのちといった人間存在の諸次元を包括した統合医療へと関心が向かっている。

著書：『鬱病』有斐閣・『心理療法の本質』日本評論社・『現代のエスプリ』内観療法の現在』至文堂など。

企業の社会貢献活動は「未来社会への投資」

2000年代に入り、企業の社会的責任(CSR)への取り組みが強化されるようになると、各社における社会貢献の位置づけは変化し、CSRの一環として推進する傾向が強まりました。

企業は経済的な価値だけでなく、多面的な価値の創造を社会から求められるようになりました。こうした時代にあつて、CSRは、企業が持続的に成長・発展を続けるための経営基盤であると言えます。

そのため、企業が社会貢献活動を単なる、慈善活動にとどめておくことはできません。むしろ、経営理念の延長線上に描いた企業と社会との関係、そして社会そのものの未来像を実現するための投資、「未来社会への投資」と位置づけ、社会的リターンや企業価値の向上につなげていることが求められます。社会福祉、健康、環境、教育など、社会の課題解決に自発的に取り組む、企業が社会を支える重要な一員であることを社会から認めたいと。また、従業員一人ひとりが社会に関心を持つことによつて、社内に柔軟で創造的な文化を醸成する。社会貢献活動を通じて得た知見や経験、人権感覚や地球環境に

対する問題意識を企業活動に活かしていく。地域社会で活動



マルエイ社会貢献基金の皆様と

私もあなたもみんながよくなる 幸せ未来社会への投資

社会貢献活動は 信頼の循環・幸せの循環を 社会につくり出す善意の循環

する中で、社会的課題を捉え、新しい事業開発のヒントとしていく。このように、企業と社会の接点を広げながら進めていく活動は、CSRをより地に足のついたものとし、ステークホルダーとのコミュニケーションを深めていくことにもつながります。

一方、CSRへの関心が世界的に高まった背景を考えると、地球温暖化、「極貧層」が世界人口の約20% (12億人) にも達するといふ貧困問題、地域文化の崩壊など、企業活動にとつても深刻な社会問題が枚挙に暇がありません。

企業は世界市民として、グローバルな視野を持ち、ローカルに根ざした社会貢献活動を展開することが求められています。

「日本経団連社会貢献推進委員会 編著、日本経団連出版、2008」参照

社会貢献活動の近況報告 (株)マルエイ 幸せ創造基金より「青少年育成基金」へ50万円の寄付

(株)マルエイグループ社員による社会貢献活動「幸せ創造基金」が開始されました。つい先日、盛和塾の研修会が当地にお越しになりました(株)マルエイ代表取締役の澤田

栄一氏には、当財団と「いのちの森構想」の活動にたいへん共感・共振していただき、社員さんと共に、社会貢献活動の一環として、継続的に支援を検討したいというお話をいただき、去る6月5日6日で社員さん8名様が社会貢献支援内容の検討のためにお越しになりました。

(株)マルエイ様は、LPガスなどを販売されている社員250名の会社ですが、社員さんから寄付金を募り、マルエイ幸せ創造基金を創設し、その基金を元にカンボジアへの井戸掘り支援や国内外での植林活動、河川清掃やペットボトルキャップ回収を実施。

東日本大震災では、天然水の宅配を関東優先とし、供給体制を強化、「被災した方には心からお見舞い申し上げます。マルエイとして刻々と変化する状況に対応し、最大限の努力をしていく」と岐阜新聞のインタビューで話されています。

このように様々な社会貢献活動を展開されていることを伺い、すばらしいと感じご紹介させていただきました。今回は、マルエイ幸せ創造基金からのご寄付とチャリティコンサート「世界平和のいのちの森の音楽祭」の開催を支援していただけたことになりました。

「今回の研修は、塩沢先生が禅の思想を取り入れた研修システムで、根本的な考え方は日々の実践を通して一人一人の意識を高め、意識が高まれば一人一人の集合体である社会も向上するという考え方でした。

そのためには一人一人の心の意識の向上(人格の向上)がとても大切で、無農薬野菜の生産や宿泊されるお客様のお話をすることで、そういった体験を通しての気づきから意識レベルの向上を行っています。

日常生活の中に社会貢献の意識の芽生えが育つ

特に勉強になったのは食事の後、必ず食事の片づけをするのですが、使用したテーブル、椅子、床を雑巾で拭き、その時にその事だけに集中し、余計な事は一切考えないようにする有意注意の訓練になりました。

「ありがたう」と言って掃除をしていると余分な事を考えずに集中して行う事が出来ると気づきました。

いのちの森水輪には7名のスタッフと13名の実習生が働いています。スタッフ・実習生の方の中には、薬物中毒であったり拒食症であったり心に深い傷を負っていたり、と社会的に見ればハンディを負われた方々がいました。

しかし1日目の午後の農業体験実習において25歳くらいの男性のスタッフの方が同行して頂きまして、説明の途中で雨が降りかけ、実習が出来なくなり、作業場でお話となりました。その方はお話の中でいのちの森水輪へ来るまでのご自身の人生体験をお話なさっていました。

「いのちの森文化財団」 「いのちの森構想」 「いのちの森文化財団」

「いのちの森文化財団」 および「いのちの森構想」は、これまで、多くの企業・団体・個人の方々の社会貢献活動に支えられ現



社会貢献活動について話し合いました

「いのちの森文化財団」 および「いのちの森構想」は、これまで、多くの企業・団体・個人の方々の社会貢献活動に支えられ現

「いのちの森文化財団」 および「いのちの森構想」は、これまで、多くの企業・団体・個人の方々の社会貢献活動に支えられ現

「いのちの森文化財団」 および「いのちの森構想」は、これまで、多くの企業・団体・個人の方々の社会貢献活動に支えられ現

「いのちの森文化財団」 および「いのちの森構想」は、これまで、多くの企業・団体・個人の方々の社会貢献活動に支えられ現

「いのちの森文化財団」 および「いのちの森構想」は、これまで、多くの企業・団体・個人の方々の社会貢献活動に支えられ現

在の事業をさせていたただいており、改めて、御礼申し上げます。ご寄付・ご支援いただいた方々をご紹介させていただきます。紙面の都合上、次号と2回に渡り、(今回は企業・団体関係者の方々を中心に)ご紹介させていただきます。(敬称略・順不同)

京セラ(株)名誉会長・KDI(株)最高顧問・日本航空(株)名誉会長 稲盛和夫(株)ティールワイリミテッド代表取締役会長 依田巽/ファミリ(株)代表取締役社長 福田二千武(株)フェリスモ 名誉会長 矢崎勝彦(株)AOKIホールディングス代表取締役社長 青木 擴憲(株)出版文化社代表取締役社長 浅田厚志(有)浅沼建設 代表取締役 浅沼平(株)アフリカタロウ 代表取締役 役員 江見 芳治・代表取締役社長 江見 じゅん(株)アンピール代表取締役 鈴木 雅晴(株)アイケイ代表取締役社長 飯田 裕・取締役 野村 恵子/イシダグロ農材(株)取締役社長 石黒 功/豊安工業(株)代表取締役 磯村 洋子/ウェーブリアルエステート(有) 取締役社長 井田 光洋(株)井出工業 常務取締役 井出 寛(株)小布施堂 代表取締役 市村 次夫/ダックス(株)代表取締役 大畑 憲/ネクスタ(株)代表取締役社長 岡崎 昌三/魚沼冷蔵(株)代表取締役 小田 島 美智子(株)カサマ取締役 会長 笠間 保子・代表取締役社長 笠間 力(株)かとう製菓 代表取締役 加藤 進/木場フオーム印刷(株)代表取締役 木場 貞夫/木下製網(株)代表取締役 会長 木下 修・容子・代表取締役社長 木下 康太郎(株)シナノポリ 顧問 窪田 吉男(株)富士工業 代表取締役 熊野 斐子/長野ひまわり幼稚園 園長 黒木 信子(株)スワイク 代表取締役社長 小池 大洋(株)ショーゼン 代表取締役 五反田 哲男/ピアス(株)取締役社長 阪本 和俊(株)マルエイ 代表取締役 澤田 栄一(株)あさひ 顧問 下田 幸男/上田 第三木材合資会社 代表社員 会長 島田 基正/マイクrost(株)代表取締役社長 白鳥 典彦(株)スズキ

プレシオン 代表取締役 会長 鈴木 庸介・美江(株)インターエックス 代表取締役 瀬山 昌宏(株)ナショナルトラス 代表取締役 瀬戸山 秀樹(徳武産業(株)あゆみ事業部 代表取締役 十河 孝男(株)玉越代表取締役社長 高木 和美・高木 一夫/大里綜合管理(株)代表取締役 野老 真理子(株)みずすコーポレーション 代表取締役 会長 塚田 俊之・稲子(株)南信美装 代表取締役 塚原 悦男(株)日本真空科学研究所 代表取締役 飛田 洋一(株)西野木工機製作所 西野 富子(株)ダイサン青果 代表取締役 早川 明良(株)ハヤシ 代表取締役 林 秀昭(株)ヒカリ 代表取締役 社長 平井 英雄(株)ホワイトマジック 代表取締役 平賀 秀夫(株)オリム代表取締役 平林 元樹/福島工業(株)代表取締役 社長 福島 裕(株)CDG 代表取締役 社長 藤井 勝典/太陽フラスナー(株)代表取締役 会長 藤田 敏光・典子(株)藤森プロパティ 代表取締役 社長 藤森 康友(株)ガイアシステム 代表取締役 会長 瀨上 智信(有)ホソガネ 代表取締役 細金 勝治/公益財団法人 スペシャルオリムピック ス日本 名誉会長 細川 佳代子・會長 三井 嬭子(株)八仙閣 代表取締役 増田 稔・美美(有)アイエオフィス 代表 本 田 健(株)組織科 学研究所 代表取締役 社長 松尾 紀子(株)アスカ佛商 代表取締役 丸 淳一(株)バーモス 代表取締役 丸 山 静子(株)アルプスピアホーム 代表取締役 会長 丸山 政則(株)信光 菅センター 代表取締役 三井 和典(株)エム・アイ・デイ・ジャパ ン 代表取締役 三井 慶満/スター ツコーポレーション(株)代表取締役 会長 村石 久(株)アクト 代表取締役 山口 吉孝(株)山研ビルサ ービス 代表取締役 山下 久人(株)ヤマシタ 代表取締役 社長 山下 洋 祐(株)ワイター 代表取締役 山田 百合子(株)ユニックス 代表取締役 会長 水島 達也/山本記念病院 理事長 山本 百合子 ※次号にも引き続き掲載させていただきます。

「いのちの森文化財団」 および「いのちの森構想」は、これまで、多くの企業・団体・個人の方々の社会貢献活動に支えられ現

福島県被災地の子供たちに安心・安全なお野菜を支援物資としてお届けします

当財団が現在行っている「東日本大震災被災地の子供たちの教育を支援する活動」の一環として、福島第一原子力発電所から26km程の場所にある福島県南相馬市の2箇所の保育園に、当地信州飯綱高原産の農薬・化学肥料を一切使用しない安心安全でおいしい自然農法の野菜を産地直送にてお届けすることにいたしました。

7月4日から毎週火曜日着にて、11月6日まで合計19回分をお届けさせていただきます。当財団より30万円分、野菜生産者の株水輪ナチュラルファームからも30万円分の寄付のお申し出があり、合計60万円分のお野菜を送りいたします。以下に、2箇所の保育園といただきましたメッセージもあわせてご紹介させていただきます。被災地の子供たちの支援は今後も重要課題と捉えており、皆様の引き続きのご支援をお願い申し上げます。

「このたびは当保育所へのご支援まことにありがとうございます。私たちが子どもの命と健康と心を守るためできることから一歩一歩進んでまいります。今回、お野菜のご支援の件、お話をいただいたことで保育所スタッフ全

員で喜んでおります。この子どもたちを無事健康に社会へ送り出し、よりよい社会作りのための一助になればと、今後とも取り組んでまいります。

社会福祉法人福陽会 北町保育所 副所長 近藤啓一



● 社会福祉法人福陽会 北町保育所の園児さんたち



● 社会福祉法人ちのろば会 原町聖愛保育園の園舎と園児さんたち（園舎地表も除染をされたこと）

公益財団法人いのちの森文化財団では以下の公益目的事業への寄付金を募集しています

- ① 「死を思いより良い生を生きる・医療と養生の統合・高齢者の生きがい創造事業」
- ② 「社会復帰と自立のための青少年育成活動」
- ③ 「東日本大震災被災地の子供たちの教育を支援する活動」
- ④ 「いのちの森の会費（一般寄付・当財団の公益目的事業全般のために使用）」

ご支援頂ける方は、お振込み時に寄付先①～④を明記頂くか、財団事務局までメール・FAX・電話にてご連絡の上、次の口座までご支援いただきたくお願い申し上げます。なお、本財団への寄付は税制上の優遇措置が適用され、所得税・法人税の控除が受けられます。

- ゆうちょ銀行振替口座 00520-3-42181
- 八十二銀行 本店営業部 普通 1093531

いずれも名義は 「公益財団法人いのちの森文化財団」

【報告】いのちの森の大学講座

「脳と心の勉強会」

平成24年6月16～17日
講師：久間祥多 先生
(七沢リハビリテーション病院 脳血管センター 脳神経外科医)

参加者の皆様よりご感想を頂きましたので、一部をご紹介させていただきます。この講座では、講義・Q&A・体験ワークを通じて私たちの「脳と心」の様々な面について学んでいきます。

● 先生の講義の中で社会が共感的な絆より、契約や利害で動くようになると自殺者が増えるというお話がありました。まさにその通りだなと思いまし

た。世の中では損得、利害で動き（表面的にはそうでない）と装っている人が信じていることのできない社会でもあった様に思います。先生の講座で学び、真の人間関係のあり方、そして、人との関わりコミュニケーションがすごく大事だということに改めて感じ、認識しました。朝起きて、身体いっぱいに日の光を浴び、よく動き、ポジティブな考え方を身につけてセロトニンが活性化すること、これを自ら実践していきたく思います。(C・Kさん)

● 自分の意識の力で脳は活性化される。眠気にも打ち勝てる。今の自分には、実習を嫌なものと思わず、自分を成長させるものと思いがらやっているので、そういう脳が作られてきた

ではと思います。家にいた頃は、学校に行かなくなつてから、家での生活の楽しみはマンガやアニメなどで、あまり外に出ない生活を送っていたためにきつと脳のネットワークはかなり弱くなつてしまつていたと思えます。だからこそ今この時という、目の前の事に意識を向けて、生活習慣を直していきつつセロトニンなどの脳内物質も高めていこうと思えます。今回の講義で教わったことは参考になるところが多かったです。これから、この自分の意志の力を育てていき、一歩ずつ前へと進んでいきます。(Y・Kさん)

★久間先生の次回の「脳と心の勉強会」は、11月10日(土)～11日(日)にです。どうぞおたのしみ。

2012年～2013年 いのちの森文化財団主催事業 いのちの森の大学講座 (学長 帯津良一 副学長 巽信夫) ～一人一人の生き方を深める～

がん患者のための合宿養生塾
講師 帯津良一 先生 (帯津三敬病院名誉院長)
2012年 8月24日(金)～28日(火)
11月2日(金)～6日(火)
2013年 3月29日(金)～4月2日(火)
免疫力・自然治癒力を高め、病を克服し、明るく希望を持って生きるための実践講座です。手術、サプリメント、代替療法、心の持ち方、その他どんな悩みにも帯津先生が直接お答えする車座交流Q&Aや気功実技指導、基調講演など帯津先生から学べる時間がたっぷりあります。



「いのち学」
講師 帯津良一 先生 (帯津三敬病院名誉院長)
2012年 8月24日(金)～28日(火)
11月2日(金)～6日(火)
2013年 3月29日(金)～4月2日(火)
志高く、人を患者を尊重する言葉の在り方、帯津先生の存在そのものの在り方を学びます。本年は特に帯津先生の40年以上にも渡る豊富な臨床実践例から「いまから始める養生訓」についても学びます。

いのちの森で学ぶ親子相談勉強会
講師 巽信夫 先生 (信州大学病院外来専任医)
2012年 6月29日(金)～7月1日(日)
臨床歴40年以上の大変豊富なご経験と見識をお持ちの巽信夫先生をお招きし、様々な実例を通して学ぶ貴重な勉強会です。親子でも、親御さん・ご本人だけでもご参加頂けます。



心の探求
講師 宮島基行 先生 (高野山真言宗阿闍梨 南山進流声明第一人者)
2012年 8月31日(金)～9月2日(日)
ご要望をいただき、1月に引き続き、夏も般若心経を中心に学びます。般若心経の真髄、生活の中での活かし方を高野山の宮島阿闍梨に直伝していただきます。また、あわせてご真言も教えていただき、日々の心のあり方や生活が良い方向に導かれるように、ご指導頂きます。



脳と心セミナー
講師 久間祥多 先生 (脳神経外科医)
2012年 11月10日(土)～11日(日)
脳と心の関係を探り、私たちの無限の可能性を探ります。また、意識によって脳と心をもどるような良い方向へ向けてゆくことができるのか、具体的にお話いただきます。脳と心に関するどんな質問も受け付けます。



気功合宿
講師 中健次郎 先生
2012年 9月15日(土)～17日(月祝)
気功・太極拳・家庭療法・瞑想法・心のあり方・東洋哲学・東洋医学等を指導されている中先生の気功合宿です。中先生著書：『病気が治る「気功入門」』DVDブック (マキノ出版)



青少年育成公開講座
各界第一線でご活躍の先生方をお招きし、青少年育成・自立支援の為の公開講座です。青少年・ご家族の方、どなたでもご参加いただけます。(参加費無料)
【2012年】

- 7月1日 井上弘寿 先生 (精神科医)
テーマ 「前向きに生きる為の心の病とお薬の関係について」
- 8月 帯津良一 先生 (帯津三敬病院名誉院長)
テーマ 「食養生」
- 9月 中健次郎 先生 (気功家)
テーマ 「気功と人間の本質」
- 10月 小林計正 先生 (元県職員)
- 11月10日 (土・祝) 久間祥多 先生 (脳神経外科医)
テーマ 「脳を知ろう」
- 12月 高野道隆 先生 (会社役員)

- 【2013年】
- 1月 宮島基行 先生 (高野山真言宗阿闍梨)
- 2月 早川明良 先生 (株ダイサン青果代表取締役)
- 3月 帯津良一 先生 (帯津三敬病院名誉院長)
テーマ 「白隠禪師と呼吸法」

集中内観セミナー【随時開催】
面接 塩澤研一 (日本内観学会会員)
自身の過去を振り返り、父、母などとの人間関係の中で、①お世話になったこと、②して返したこと、③迷惑をかけたことの3点について調べていきます。その結果、自分を客観的にとらえ、今後の生きるビジョンが見えてきます。



リーダーシップセミナー【随時開催】
講師 塩澤みどり (いのちの森文化財団理事長)
生活と仕事を通して学ぶ。心の持ち方、人との関わり、志。人を導く立場の方に必要な資質・能力を身につけます。リーダーシップを発揮するために人格を磨き、人を引きつけ導く力をつけていきます。



こけ玉グリーンアートセラピー【随時開催】
こけ玉は私たちの心の風景を映し出し、元気を与えてくれます。出来たこけ玉は手入れをすれば何年でも生き続けます。指を使い土を練り、こけ玉をつくるプロセスを通し忘れていた大切なものに出会っていきます。

いのちの森の学校【随時受入】
知力・体力・気力を充実させ、人間力・仕事力・徳力・生活力を養い、若者の「働く」と「自立」を応援します。体験入学受付中 (2泊3日～)

いのちの森の音楽祭
12月 アーティスト ピアノ演奏家

シーズンチャレンジボランティア【随時開催】
つながりあおう人と自然と大地といのち。ボランティア保険にも加入しています。

Webカウンセリング【随時開催】
財団では、Webカウンセリング事業 (無料) を行っております。

※詳細はお問い合わせ下さい
いのちの森文化財団事務局 TEL 026-239-0010